

令和元年10月23日 信者心の道勉強会

神 示

今日は代神 大山祇命の側近の神として

心正しく「信者の道」ゆく人の心を 導き 守っている

皆に問う

信者の道とは何か――

「教え」を学び 祈願重ねて

「真実の愛」に生きる人を目指す

人間は 欲心に心のまれ 実体を下げ 悩み 苦しむ

――「教え」を学び 「人生の真理」を知ること

「道」欠く心の動きを祈願で正す――

この悟りが

「真実の愛」を探求し 社会に奉仕する人を育てる

「教え」は真理

人誰もが学び 身に付けるべき

「人たる人の心」を教えている

「真理」を人生の支えに生きるなら

人は皆 全ての出会いに感謝の思いを深め

互いに運命を重ね 支える心が芽吹く

「人たる人の心」に

人間は 「愛」と「信頼」を共有し

調和に「生きる」人を目指す

この心の姿を 「真実の愛」に生きる人という

人類は 「真実の愛」の姿に気付いて

神の手の中 救われてゆく

←いきます。

そのように、人生を正し、高めていこ

うとする悟りが、真実の愛を探求し、社

会に奉仕する自分を育てます。自己愛と

他者愛の調和が取れた、お互いさまの感
覚で生きられます。

神の教えは、真理です。誰もが学び、

身に付けるべき人としての心です。人間

代神は、大山祇命の側近の神として、
信者一人一人を導き、守ってください
ます。それを認識し、代神への感謝が
あれば、心正しく信者の道を歩む以外あ
りません。

信者の道とは何かといえば、神の教え
を学び、祈願を重ね、愛ある心で生きる
自分を目指すことです。真実の愛とは、
自己愛と他者愛の調和が取れた心です。

人間は、自己愛が強く、欲心にのまれ
て、自ら実体を下げ、悩み、苦しみを生
み出します。ですから、教えを学び、人
としてあるべき心を知って、祈願しなが
らその心の動きを正していくことが必要
です。

教えを学ぶ中から、自身の性格傾向に
気付き、実体の修正を図ることです。自
らを客観的に捉え、祈願しながら抑え、
改め、高めていくのです。

人生の真理を知れば、道を欠く心の動
きも見えて、自分自身の問題として正す
ことができます。教えに生きれば、品性
も高まり、希望の光が通る人になって

関係を円満につなぐ教えです。誰とも常
に調和が取れば、実体が引き上げられ
ます。そこに、運命が光り、迷うことな
く、悔いのない人生が歩めます。

神示、真理を心の支えに生きることで
す。そこに、さまざまな出会いに感謝を
深め、互いに運命を重ね、支え合っ
て生きられます。人間関係が深まり、常に調
和が図れます。

人として正しい心がかめれば、誰と
も愛と信頼の思いを共有し、調和の中
で暮らせます。それが真実の愛に生きる人
間です。今は代神である供丸齋先生は、
真実の愛を探求し尽くし、愛に生きられ
ました。そうした生き方を手本にするよ
うに、神は促されているのです。

愛と信頼で結ばれた、調和の中に生き
る自分を目指しましょう。真実の愛の心
へと高めていくのです。その大切さに気
付き、人生を高めていけば、必ず誰もが
救われます。人生の醍醐味を味わい尽
くし、やがて人生を悔いなく閉じていくこ
とができるのです。